



三九郎煙に洗われ無病息災を願う

ざんじみち
安原

平成 29 年 笑顔になれる一年に

安原地区三方所の三九郎を取材しました。子どもたちははじめに、松を集めだるまを取り付け煙と戦いまゆ玉をあぶります。干支は酉。鳥の年として浮かぶ言葉はいくつもあります。(自由に) 羽ばたき(時代の) 先取り(幸運を) 取り込む(真摯な) 取り組み、など他にもたくさんあります。不死鳥といわれるのは「火の鳥」。何度も蘇る伝説の鳥。あやかりたいものです。

酉

※上の「酉」の書は、安原地区公民館で活動している習字サークル「あすなる」の矢口千代子さんの書です。



勢い良く燃え盛り
時に竹とだるまがはじけます



見回りの消防団の方々には
安全もおき作りまでもお願いしました



まゆ玉・餅・マシユマロの花が咲き乱れます

「あすなろ」の2人 上位入賞

市民書道展で



受賞作品と、喜びを語る矢口さん(右)と土田さん

安原地区公民館を拠点に活動する書道サークル「あすなろ」の会員2人が、先ごろ開かれた松本市芸術文化祭の市民書道展で市長賞と市教育長賞を受賞しました。

市長賞に選ばれたのは矢口千代子さん。石川啄木の短歌を流麗な仮名の作品に仕上げました。審査に当たった松本地区書道協会の大澤城山理事長は「琴線のように張った強い線が躍動し、広く明るい行間の余白に響いている」と講評しました。

市教育長賞を受賞した土田房子さんは、明代の詩人・王漁洋の五言絶句を半切縦型式に草書体で収めました。「力みのない軽快なタッチの運筆が実に冴えている」との大澤

理事長の評でした。

同サークルは現在、会員5人が毎週金曜日に地区公民館で練習を重ねています。作品発表の新たな場を求めて初めて同展に出品しました。矢口さんは「思いもよらなかった」と振り返り、土田さんは「自分の時間を使って好きなことが出来る幸せを感じている」と話していました。

サークルの皆さんは、「これからお互いに学び合いながら書道を続けていきたい」と話していました。



盆栽・地植えも可能な育て易い樹木です。

男どもは夜な夜な、美男葛の粘液で頭髪を整え花柳界にくりだしたため、このような名前がつけられました。花言葉の「再会」からも名前の由来が連想できます。果実酒にして飲むと滋養強壮、疲労回復の効果が大きいといわれています。

実つきをよくするためには、強い日差しを避け、根元の乾燥に注意し、リン酸カリ肥料を施し強剪定することです。



映画祭で賑わう夜の萩町商店街

いちよう並木

サネカズラ 別名 美男葛
名前の由来

和菓子のような大きな赤い実が付くビナンカズラ(「写真」、モクレン科サネカズラ属マツブサ科の常緑つる性樹木。樹皮を剥くと粘液が出ます。

その液を水に浸し整髪料として利用しました。

昨年12月23日、最終バスが通り過ぎた夜10時半から2時間にわたって萩町商店街が歩行者天国になり、100人を上回る人が訪れました。

『真夜中のサイレント映画祭』が開催されたのです。

昨年5月から萩町の空き店舗を利用して活動してい



書店の壁が大スクリーンに变身

「寒いから夏にやったらもっと人がくるよ」「以前はよく買い物に来ていたが今は車で通り過ぎるばかり。久しぶりに街を歩いて懐かしいなど、さまざまな声が聞かれました。

「真夜中のサイレント映画祭」が、建物(呼称「ロッピキ」)の外に出て、地域のひとと学生をつなぐイベントをやるうと立ち上がりました。助っ人を買って出たUターン

の若者と共に企画し、「道路を使うなら夜中」「そう、店のシャッターに映画を映そう!」と盛り

上りました。萩町商興会の皆さんも快諾。地域の人々や学生仲間、関係各方面の協力を得て実現しました。

自転車店のシャッター、書店の壁面や路面をスクリーンにして映し出された自主制作作品や動画の数々は、味のある映像となつて楽しませてくれました。ときどき、ロッピキに駆け込んで暖をとってまた外へ。

メンバーの一人は「初めての企画で試行錯誤だったが大勢の人が集まってくれださる嬉しい。もしまた機会があれば、次回は完璧にしたい」と話していました。